

2024年度JKA補助事業 公設試(機械設備拡充)について、2回目の自己評価を行ってください。

・提出期限：2026年4月30日(木)

・提出先：m2024hyoka@keirin-autorace.or.jp

《JKA補助事業 自己評価書(2回目) 記入のしかた・記入例について》

* **青字部分**は記入例です。記入の際、参考にしてください。

* **水色箇所**は記入箇所、**ピンク色**の項目は選択肢の中からひとつを選択していただく項目、**緑色の項目**は複数選択可の選択項目となります。

* 以下の【記入にあたっての注意点】もご一読のうえ、ご記入ください。

2024年度自己評価書(2回目) 様式・記入例 ↓

【記入にあたっての注意点】

整理番号	2024M - 300	補助事業者名	〇〇県	補助事業名	公設工業試験研究所等における機械設備拡充
------	-------------	--------	-----	-------	----------------------

2024年度 JKA補助事業 自己評価書(2回目)									
項番	1 /	総事業項目数	2	補助事業項目名	〇〇〇〇分析装置				
作成日		2026	年	4	月	18	日	作成者	競輪 太郎

1. 2024年度補助事業で整備された設備・機器について、ご記入ください。

導入機器名	〇〇〇〇分析装置 (FX-26/60型)
導入形態	☒ 更新(同種機器入替) ☐ 新規 (初めて導入) ☐ 増設(複数台目の機器として導入)
機器の特徴・用途	測定対象物の〇〇にX線を照射し、含有する元素の種類や量を非破壊的に分析する装置であり、〇〇から〇〇の元素が検出可能。据置型装置では対応が困難な大型品や稼働中・供用中の装置部品についても、現場における計測・分析が可能であり、研究開発や技術支援に活用できる。
機器の設置場所(施設名等)	〇〇県産業技術センター
機器設置場所所在地(住所)	〇〇県〇〇市〇〇町1-2-3

◆整理番号、補助事業者名(法人名)を記入してください。

◆事業項目が複数ある場合は、何項番目の事業かご記入ください。
例) 事業項目が2つあるうちのひとつめの事業の場合 → 項番:1、総事業項目数:2 となります。

◆事業項目数が複数ある場合は、項番それぞれの事業項目名を記入してください。

◆この自己評価書の作成日、作成者を記入してください。

◆導入した機器の詳細をご記入ください。

◆あてはまるものをひとつ選択してください。
!! 注意 !! 「新規」については、JKA補助かどうか、また、機械の種類に関わらず、今回、法人所有の同機能の機器を初めて導入した場合のみ選択してください。「同機能の機器自体は以前より所有しているが、JKAの補助を受けて導入したのは初めて」という場合や、「この種類の機器を導入したのは初めて」といった場合は「新規」には該当しません。

◆導入機器の特徴を記入してください。

◆導入した機器を設置した施設名、およびその施設の所在地(住所)をご記入ください。

利用開始日	2024	年	10	月	15	日								
運用月	稼働日数 (日)		依頼試験・依頼分析 (件)		技術指導 (件)		試験設備貸出・利用 件数(件) 時間(時間)		受託研究・共同研究 (件)		その他 (件)		利用件数 計(件)	
2024年 8月													0	
2024年 9月													0	
2024年 10月	2		0		0		0 0		0		2		2	
2024年 11月	9		1		0		0 0		0		8		9	
2024年 12月	12		8		0		0 0		0		4		12	
2025年 1月	1		0		1		0 0		0		0		1	
2025年 2月	2		0		0		0 0		0		2		2	
2025年 3月	9		0		0		0 0		0		9		9	
2025年 4月	12		0		6		0 0		0		6		12	
2025年 5月	11		0		7		0 0		0		4		11	
2025年 6月	8		0		6		0 0		0		2		8	
2025年 7月	11		2		4		0 0		0		5		11	
2025年 8月	4		0		0		0 0		0		4		4	
2025年 9月	9		0		5		0 0		0		4		9	
2025年 10月	8		4		0		0 0		0		4		8	
2025年 11月	5		3		2		0 0		0		0		5	
2025年 12月	10		0		4		0 0		0		6		10	
2026年 1月	17		4		5		0 0		4		4		17	
2026年 2月	16		4		4		0 0		0		8		16	
2026年 3月	11		0		6		0 0		0		5		11	

稼働日数が10日に満たない月がある場合、その理由と事業者様自身が稼働状況をどのように判断されているかをお教えてください。
また、上記表にご入力頂いた情報で、件数の見方や捉え方等、補足が必要なものがございましたらご記入ください。
(例:1回の稼働に○時間かかるため、必然的に利用件数は少なくなる 等)

事前計画で設定した稼働日数を達成しており、想定通り活用されている。
事前に測定方法や測定内容を十分検討することにより、測定の効率化を図っている。

機器の利用者についてお教えてください。 ※利用企業名は公表いたしません

主な利用者 及び利用内容	利用企業名	産業分野	利用内容
	〇〇〇工業株式会社	機械修理業	工場のメンテナンスにおいて、〇〇使用し、図面が残っていない部品の成分を分析した。
	〇〇〇〇工業株式会社	金属製品製造業	工場内で製品を切り出すことなく成分を非破壊的に分析した。
	株式会社〇〇〇〇	産業用機械製造業	外注した部品の成分が〇〇〇〇〇〇〇か〇〇〇〇なのかを判定するのに使用した。
	株式会社〇〇〇	小売り	〇〇を輸入販売している業者が、製品の材質を調べることに用いた。
	学校法人〇〇学園	教育機関	歴史的建造物の調査において、〇〇を非破壊的に分析した。

◆利用開始日(運用開始日)からの稼働日数、依頼試験・依頼分析、技術指導、試験設備貸出・利用、受託研究・共同研究、その他の利用件数をそれぞれ記入してください。なお、「利用件数計(件)」については自動計算となっております。

◆稼働日数が10日に満たない月がある場合、その理由を記入してください。
(なぜその月は稼働日数が少なかったのか、またその理由として改善が必要と思われる場合、今後どうしていく予定か、など)
また、利用状況についての特記事項があれば記入してください。
(例:「1回の稼働に○時間かかるため、必然的に利用件数は少なくなる。」 等)

◆機器の主な利用者や内容についてご記入ください。
なお、ご利用いただいた企業名の公表はいたしません。

当該設備・機器の導入前後を比較して、どのような効果がありましたか。（“その他”にチェックした場合、その内容を右枠にご記入ください。）

JKA補助
試験・研究
設備・機器
導入の効果

（複数選択可）

- ☐ 稼働日数が増加した。 ☐ 利用者が増加した。 ☐ 運用コストが下がった。
☐ より安価に試験・研究が行えるようになった。 ☐ より精度の高い試験・研究が可能になった。
☐ より効率的な試験・研究が可能になった。 ☐ 利用者の機器の操作負担が軽減された。
☐ その他 ⇒

◆複数選択可です。機器の操作者としてあてはまるものすべてにチェックをしてください。

上記「導入の効果」の中で最も効果があったと思われるものを一つ挙げ、その詳細をご記入ください。

最も効果があったこと ⇒ その他

これまでできなかった〇〇分析が実施可能となった。これにより、機械修理や産業用機械製造分野の企業から寄せられるより多くのニーズに対応可能となった。

※「その他」を選択した場合は、その詳細を記入してください。
（例：これまでできなかった測定が実施可能となった など）

◆上記で選択した項目のうち、最も効果があったと思われるものをひとつ選択してください。
（プルダウンで選択できます）

◆上記「最も効果があったこと」で選択した項目について、具体的にどのような効果があったか、その詳細を記入してください。

2. 以下の評価項目について、ご記入ください。

個別の評価項目について、交付誓約書添付の『事前計画／自己評価書（3／5） 4. 補助事業の事前計画』の、達成状況等を把握し、ご記入ください。

○採点基準については、2024年度補助事業実施に関する事務手続要領『別冊評価要領』p27.28「自己評価スコアリングガイド」をご参照ください。

(1) 受益者 (ニーズ)		本装置が導入されたことにより、これまでできなかった〇〇分析が実施可能となった。これにより、機械修理や産業用機械製造分野の企業から寄せられるより多くのニーズに対応できるようになったため、企業の〇〇〇に大いに貢献した。また、最新の機種ゆえに分析がこれまでの装置よりも速いため、測定効率が増上した。	採点						
			5						
(2) 事業内容	事業の発展性	〇〇〇〇〇の開発技術支援拠点である〇〇産業技術センターに最新の〇〇〇〇〇分析装置が導入されたことにより、非破壊的に分析することや材質分析などの判定が可能となった。これにより、県内外の中小企業の製品の更なる品質向上や新たなものづくりに寄与できる。	採点						
			4						
(3) 達成目標	事業の成果・波及 ※自己評価1回目から変化があった場合にご記入ください。	<table><tr><th>〔達成値〕</th><th>〔達成状況〕</th><th>〔具体的内容〕</th></tr><tr><td>1. 機器利用件数 157件/18か月 (目標120件/18か月) 2. 技術講習会の開催数 2回(目標1回)</td><td>1. 機器利用件数 131 % 2. 技術講習会の開催数 200 %</td><td>1. 機器利用件数 2024年10月の導入から2026年3月までの利用件数は157件であった。(目標値 = 80件/年) 2. 技術講習会の開催数 装置導入時に職員向け講習を実施済。その後、企業向け技術講習会を2025/〇/〇に実施した。参加者14名(7機関)。(目標値1回)</td></tr></table>	〔達成値〕	〔達成状況〕	〔具体的内容〕	1. 機器利用件数 157件/18か月 (目標120件/18か月) 2. 技術講習会の開催数 2回(目標1回)	1. 機器利用件数 131 % 2. 技術講習会の開催数 200 %	1. 機器利用件数 2024年10月の導入から2026年3月までの利用件数は157件であった。(目標値 = 80件/年) 2. 技術講習会の開催数 装置導入時に職員向け講習を実施済。その後、企業向け技術講習会を2025/〇/〇に実施した。参加者14名(7機関)。(目標値1回)	採点
			〔達成値〕	〔達成状況〕	〔具体的内容〕				
1. 機器利用件数 157件/18か月 (目標120件/18か月) 2. 技術講習会の開催数 2回(目標1回)	1. 機器利用件数 131 % 2. 技術講習会の開催数 200 %	1. 機器利用件数 2024年10月の導入から2026年3月までの利用件数は157件であった。(目標値 = 80件/年) 2. 技術講習会の開催数 装置導入時に職員向け講習を実施済。その後、企業向け技術講習会を2025/〇/〇に実施した。参加者14名(7機関)。(目標値1回)							
			5						

◆1回目の自己評価の際と同様に、事前計画／自己評価書（3／5）の目標に対し、どれだけ達成できたかを記入してください。
採点欄については、別シートのスコアリングガイドを参照の上、採点してください。
（点数はプルダウンで選択できます）

◆(3)達成目標については、1回目の自己評価時から達成状況などに変化があった場合、変化があった後（現在）の状況について記入してください。
!! 注意 !! 達成状況のパーセンテージについては、1回目の自己評価時との比較ではなく、事前計画／自己評価書（3／5）記入の内容と比較して算出してください。

3. 当該設備・機器の利用者の声をお聞かせください。

・屋外で利用する開発中の製品の〇〇を、短い時間で分析することができた。
・これまで対応できなかった〇〇〇の分析が可能になり、その値を用いて適切な材料選定ができた。

◆実際に今回導入した機器を使用している施設職員、利用企業者の声などを記入してください。

4. 公設工業試験研究所等を取巻く状況や課題をお聞かせください。

利用件数が少ない装置は各県で廃止・撤去する方向であり、当県でも装置利用できない場合は他県公設試や民間試験機関等を紹介している状況である。
そのため近隣の公設試が利用できない場合には、交通費をかけて遠方の公設試を利用したり、高額な民間試験研究機関を活用することになるため、中小企業の負担は増加する傾向になってきていると考える。

◆事業分野での問題点や課題等を記入してください。
また、国の施策、それに対する影響等がありましたら併せて記入してください。

5. 上記1～4についての補足がございましたらご記入ください。

県の予算が限られる中、県単独でニーズの高い高額機器を導入するのは大変困難であり、貴財団の補助事業により利用者ニーズに適した機器導入ができています。

◆この自己評価の補足や、JKAIに対する要望等を記入してください。

以上となります。 ご協力ありがとうございました。 m2024hyoka@keirin-autorace.or.jp までご送信ください。

【公設試(機械設備拡充)】